宝が池公園を未来へ

２０１５年３月２２日（日）午後１時～国立京都国際会館 Room　B-1 に於いて「いのちにぎわう～宝が池公園を未来へ～みんなでとりくもう楽しい森づくり」と題してのシンポジウムが、京都市、京都府立大学森林科学科、京都学園大学バイオ環境学部、（公財）国立京都国際会館、（公財）京都市都市緑化協会の主催で２２０名もの市民が参加して盛大に開催されました。

京都市では、松枯れ、なら枯れ、鹿で大ピンチの宝が池公園を見直すために「宝が池公園新景観創造事業」～サクラを中心にモミジやツツジを等を生かした景観づくり～を皆さまと共に行っていきたいとの趣旨説明がありました。

第一部では「自然と共生観の中で生まれた日本の文化」と題して文化功労者、日本画家の上村淳之先生の自然は人間の原点を再認識させる等と貴重な講演がありました。

第２部では６人の森林等の専門家の各大学の先生方による、「宝が池の森の昔と今の様子」～多様性あふれる森を未来へ～と題してのパネルディスカッションが行われ、現状の把握と、今後の取組みの示唆がありました。

第３部では２人の大学の先生と各関係団体６名のパネラーにより「新しい森ってどんな森？～みんなで育む宝が池公園の森～」と題して、松ヶ崎学区から自治連合会長岩崎猛彦氏もパネラーとして参加して討論が行われました。昔の里山であった頃の話題から、今、各団体が、それぞれ問題意識を持っての取り組み状況の紹介等がありました。

景観だけでなく防災面、技術力、資金面等、ボランティアのレベルを超えていることが、浮き彫りになり、今後の宝が池公園の再生に向けた、協議会等の取り組みが急がれる。

長時間にわたって、大変熱心な話題提供、討議が行われ、宝が池公園再生に向けての大変に意義のあるシンポジウムでした。

シンポジウム風景